

FOR IMMEDIATE RELEASE

<プレス・リリース>

配信日：2022年1月13日

プレス担当：

マリカ絵美 (EMarica@japansociety.org)

アリソン・ロッドマン (ARodman@japansociety.org)

ジャパン・ソサエティー（JS）映画部

月例映画上映会

「マンスリー・クラシック」シリーズを再開

**黒澤明監督の『影武者』や北野武監督の『HANA-BI』など
多彩なラインナップを全て 35mm フィルムで上映**

於：ジャパン・ソサエティー内 劇場

(333 East 47th Street, New York, NY 10017)

Kagemusha © 1980 Toho Company, Ltd.

ジャパン・ソサエティー（JS）映画部は、この1月より月例映画上映会「マンスリー・クラシック」シリーズを再開します。2015年に始まった本シリーズは、日本映画を代表するクラシック作品、レア物作品や再発掘作品などをお届けする月に1回の映画上映会です。新型コロナウイルスの影響により上映が一時中断されていましたが、1月21日（金）午後7時より『影武者』を皮切りに再開します。

1月から4月までのラインナップには、日本映画界の巨匠、黒澤明監督作品である偉大な武将の影武者として壮烈に生きた男の物語を描く戦国スペクタクル『影武者』に始まり、武家社会や武士道の残酷さを描き、日本国外でも注目を浴びた社会派時代劇『腹切』、「さそり」と呼ばれる女囚、松島ナミの壮絶な権力への復讐を描いた『女囚さそり 第41 雑居房』、そして孤独な刑事の生き様を描き、北野武監督の名を世界に知らしめた『HANA-BI』をご用意しています。各映画の詳細は下記をご覧ください。

【リスティング・インフォメーション】

「マンスリー・クラシック」シリーズ

チケット料金：一般\$15／JS会員\$10

（全て日本語上映、英語字幕付き）

ボックスオフィス：212-715-1258

月曜～金曜 午前9時～午後5時

または JS ウェブサイト www.japansociety.org

会場：ジャパン・ソサエティー内、劇場（333 East 47th Street, New York, NY 10017）

<上映作品>

『影武者』 Kagemusha

2022年1月21日（金）午後7時

時は戦国時代。家康の野田城攻めの折り、鉄砲で撃たれこの世を去った戦国武将、武田信玄。弟の信廉は、「己の死を三年間、秘密にせよ」と遺言しこの世を去った兄の死の噂を打ち消すため、窃盗罪

で処刑されるはずの信玄と瓜二つのとある男を、信玄の影武者として立てることにする。だが男にとって戦国の雄・信玄として生きることはあまりにも過酷だった……。1980年に製作された『影武者』は、日本映画界の巨匠、黒澤明監督が偉大な武将の影武者として壮烈に生きた男の物語を描く後期の大作で、「世界のクロサワ」として世界中の映画作家・ファンに影響を与えてきた黒澤が、壮大なスケールで描いた戦国スペクタクル。製作総指揮には黒澤に大きな影響をうけたフランシス・フォード・コッポラやジョージ・ルーカスが名を連ね、第33回カンヌ国際映画祭パルム・ドールの受賞をはじめ、第53回アカデミー賞で外国語映画賞と美術賞の2部門にノミネートされるなど日本国外でも高い評価を受けた。

1980年／160分／35mmフィルム

監督：黒澤明 出演：仲代達也、山崎努、萩原健一、根津甚八、大滝秀治ほか

『腹切』 Harakiri

2022年2月4日（金）午後7時

舞台は寛永7年10月、井伊家の江戸屋敷に津雲半四郎と名乗る浪人が現れ、生活苦から切腹したいので庭先を貸して欲しいと申し出る。このところ江戸では、金に困った浪人が他人の屋敷の玄関先で切腹すると申し出て金品を巻き上げる手口が横行していた。井伊家の家老、斎藤勘解由は半四郎に、春先に同じ用件でやって来た千々岩求女という浪人の話をする。浪人たちの強請同然の手口に悩まされていた勘解由は、死ぬつもりなどない求女にわざと庭先を貸し与え、本当に切腹まで追い込んだ。話を聞き終えた半四郎は、勘解由に衝撃的な事実を語り出し、物語は一転する。『人間の条件』などで知られる社会派の名匠、小林正樹が初めて本格時代劇に挑み、1963年に第16回カンヌ国際映画祭で審査員特別賞を受賞した作品。滝口康彦の小説「異聞浪人記」を原作に、『七人の侍』などで知られる橋本忍が脚色を手がけ、武家社会や武士道の残酷さを描いた。今年で公開から60周年を迎える。

1962年／134分／35mmフィルム

監督：小林正樹 出演：仲代達也、岩下志麻、石浜朗、丹波哲郎、三國廉太郎ほか

『女囚さそり 第41 雑居房』 Female Prisoner Scorpion: Jailhouse 41

2022年3月4日（金）午後7時

「女囚さそり」のシリーズ第2作目。“さそり”と呼ばれる女囚、松島ナミがたたかれても屈せず、刑務所長に象徴される権力へ復讐する姿を描く。法務省の巡閲官の面前で、ナミは刑務所長郷田の隻眼めがけナイフを突き刺し、またしても投獄される。石切場での苦役や輪姦にナミは半死半生となるが、その後、看主を殺し、女囚のボス、大場らと共に脱走に成功し、山小屋に身をひそめる。女囚の

1人、及川が、我子恋しさのあまり独り抜けだし、我が家に戻ったところを看守たちに捕われ、取り引きをさせられる。やがて及川は看守を連れ小屋に戻るが.....。女囚たちの逃走劇は過激さを増し続いてく。彼女らを追う看守の惨殺や警察との銃撃戦にも及ぶ混戦の結末とは。原作は「ビッグ・コミック」連載の篠原とおる原作・画の同名劇画。監督は前作『女囚 701号 さそり』に続き伊藤俊也。

1972年／90分／35mm フィルム

監督：伊藤俊也 出演：梶芽衣子、白石佳代子、荒砂ゆき、伊佐山ひろ子ほか

『HANA-BI』 Hana-bi

2022年4月1日（金）午後7時

主人公は、人生を走り続けてきた刑事、西。凶悪犯の自宅を張り込み中の西は、親友で同僚の堀部に張り込みを代わってもらい、不治の病で入院中の妻、美幸を見舞いに向かう。しかしその間に堀部は犯人に撃たれ、命は取り留めたものの下半身不随となる。その後、西は犯人を追い詰めるが、自身の失態から後輩が命を落としてしまう。罪悪感にさいなまれ辞職した西は、余命わずかな美幸との不自由な生活資金を工面するため、ヤクザから金を借りる。借金の返済はやげて滞るが、西は銀行強盗を強行して借金を全額返済し、妻との最後の旅にでる。しかし、西が銀行強盗で大金を得たことを知ったヤクザや、西の行動を不審に思った同僚が彼の行く先を追う.....。1997年、第54回ベネチア国際映画祭で、日本映画として39年ぶりに金獅子賞を受賞し、北野監督の名を世界に知らしめた人間ドラマ。

1997年／103分／35mm フィルム

監督：北野武 出演：ビートたけし、岸本加世子、大杉連、寺島進、白竜ほか

【JSについて】

JSは、日本の芸術、文化、ビジネス、社会をニューヨーク及び世界の人々とつなぐ全米随一の規模を誇る日米交流団体であり、芸術と文化、公共政策、ビジネス、サステナビリティ、教育における革新的なプログラムを通じて、ニューヨーク市歴史的保存建築に指定されているJS本部ビルからだけでなく、オンライン形式でも発信しています。1907年以来、JSでは「きずな（絆）」の考えのもとに、革新的な次世代クリエイターの支援、日米相互理解の促進、日本の多様性を深く理解しようと願う世界の人々にとって信頼できる案内役となること、そして日米間の相互理解の促進と絆を深めることを目指しています。拠点とするニューヨーク市でのつながりを一層強化することに加え、米国内外での新たな架け橋の構築にも取り組んでいます。詳細は www.japansociety.org をご覧ください。

JSは今年、ニューヨークのランドマークである本館設立50周年の記念して新しいロゴマークを導入いたしました。JSが文化や人種、時を超えてつながりを作っていく基盤となることを願い、「JS」の文字の重なりと線と形の連結を用いて、絆というコンセプトを打ち出しています。

公式 SNS アカウント：

Facebook：[facebook.com/japansociety](https://www.facebook.com/japansociety)

Instagram：[@japansociety](https://www.instagram.com/japansociety) and #japansociety

Twitter：[@japansociety](https://twitter.com/japansociety)（英語）／[@js_desu](https://twitter.com/js_desu)（日本語）

その他、詳しい情報は弊社ウェブサイト <http://www.japansociety.org> をご参照ください。

住所 333 East 47th Street (1Avenue と 2 Avenue 間), New York, NY 10017

最寄駅は地下鉄、4/5/6 番ライン、7 番ラインのグランドセントラル駅、あるいは E か M ラインのレキシントン街・53 丁目駅。代表電話 212-832-1155 / ウェブサイト www.japansociety.org

取材申し込み：

上記公演の取材をご希望の方は、事前に必ずプレス担当：マリカ／ロッドマンまで E メールで (EMarica@japansociety.org / ARodman@japansociety.org) お申し込みください。尚、プレス席には限りがございます。満席の場合はご容赦ください。

JS 映画部は、
以下の財団・基金・企業および個人より支援・後援をいただいています。

Japan Society Film programs are generously supported by ORIX Corporation USA, public funds from the New York City Department of Cultural Affairs in partnership with the City Council and the Lila Wallace-Reader's Digest Endowment Fund. Additional season support is provided by The Globus Family, Masako H. Shinn, David Toberisky, Akiko Koide and Shohei Koide, Geoff and Fumi Matters, Laurel Gonsalves, David S. Howe, and Masu Hiroshi Masuyama. Transportation assistance is provided by Japan Airlines, the exclusive Japanese airline sponsor of Japan Society Film.